

積雪の小川町散策



今回メインの八宮神社

数年ぶりの降雪が残った1月25日、会員11名はその影響の残る電車の乱れるダイヤにも拘らず、全員が目的時間設定の車両で小川駅に参集した。その上、“重なるとき重なるもの”の喩通り、本日この町散策案内ボランティアのM氏を流行真っ盛りのインフルエンザで失ってしまった。

しかるにVIVO諸氏は日頃の実施訓練宜しく、事前準備の資料、小川町駅係員より“小川町観光マップ”受領、又過去にM氏の案内をクラス会の会合にて受

けた、老齡のつたない記憶を頼りに三々五々出発した。

まず東上線に沿い、西方に歩き出し跨線橋を北上、その道中にて俗称“ちちくび山”即ち笠山のうっすらと雪が残る山容を確認。

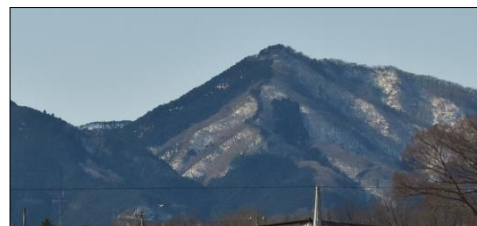
跨線橋を渡り終え、兜川の左岸を下る、川面には



アイスバーンの沿道

うっすらと結氷しているところがあった。東進を続け、民家の蔭になったアイスバーン状態の雪の塊が残る

歩道歩きが続く。左手に“花和楽の湯”新しくなった



笠山がズ〜ト付いて回る

“小川赤十字病院”交差点を南下、東上線踏切を渡り八宮神社への道をとる、八宮神社は、案内によると

このお宮は旧小川の総鎮守で天忍日命(おしほみみのみこと)ほか七柱を祭神としている事からこの名前が有る。創建は不明だが『新編武蔵風土記稿』によると「元和三年(1617年)再建の棟札あり」と有る事から、それ以前と思われる。拝殿後旧川越街道(R254)経由、槻川を越え、青山陸橋を経由して本日の昼食会場の地“晴雲酒造”へと足を運ぶ。

晴雲酒造は当地に於いて余りにも有名にて、

且つ多くの校友の方が訪問の為この項の記載は割愛させて戴くが、

皆様同様お酒と、お店おすすめの、魚・鶏肉・豚肉の料理にて一時の至福の時間を持ちました。

その後が問題のボランティアガイド不在の散策をおぼろげな記憶と、地図を頼りに開始する。まずは酒造所西側の小高い森をめざし、聖徳太子碑、仙覚律師碑をめざし、西に向かい小高い森に向かい行動



歩けば体はホッカホッカ



蛇口の下に氷柱が

倉庫などの見学は割愛、駅前の喫茶店にてぬるいコーヒーを飲み本日の散策完了、帰路の電車の人となった。

尚仙覚律師とは蛇足であるが

1203年常陸の国(茨城県)生まれの天台宗の僧侶にて、万葉集研究の先駆者で、解読できない152首の判読を行ったとある。

結びに当たり、私の伴侶の状況を鑑み温かく迎え、接して戴いたクラスの方々に厚く御礼を記載、感謝致します。今後も許される範囲に於いて同伴をさせて戴きます、宜しく願致します。

『一日ご一緒させて頂いての感想』

深澤さんご夫妻の様、夫唱婦随の人生を送れる事を願わずにはられない一日になりました。

開始。大梅寺境内を經由仙覚律師碑に向かうも、小さなため池の先の通路は無し、途方に暮れとぼとぼと歩くうち、地元の親切な初老の男性に救われる。ついてきなさいとの言葉を掛けられ降雪が未だ残る階段状の参道を登攀、目的の場所に到着した。

聖徳太子碑、その西側の万葉集の編纂に寄与した知人ぞ知る仙覚律師の碑が有る。その後は図書館を經由、冷えた体の要求に負け、旧銀行跡地、繭の倉庫、和紙の



心の温かいV I V O仲間

記： 深澤 勲 ・ 同壽子